

1. 家族にどこまで負担を負わせるか

家族に残る二つの機能

- ・成人のパーソナリティの安定（心理的サポート）
- ・子どもの基本的社会化

ケアワークをいかに配分するか

- ・かつては家族の内部で提供されていた子育て、教育、家事、介護などのサービスは、今日ではかなり外部から調達できるようになってきているが、すべてが外部化されているわけではないし、低コスト化が進むようなものでもない
- ・コストのかかるケアワークを家族、企業、政府のあいだでどのように配分し、負担を分かち合うか、議論すべき点は多い
- ・ケアワークの配分については、「これだ」と言えるようなモデルはない

日本の問題と対応策

- ・家族に対する対する社会保障支出のレベルは（高齢者に対する年金を除けば）OECD諸国で最低レベル
- ・家族重視の政策は家族の負担を増すばかりで、結果的に人々を家族から離れさせる
- ・ケアワークを外部（政府や市場）が担うことは家族の負担軽減につながり、カップル形成と出産を促す効果を持つ

2. 家事負担の平等化はなぜ進まないか

日本における夫婦間の家事分担格差

- ・男性が家事をしないのは長時間労働のせいとは言えない
- ・夫婦が時間の面で同等に働いている共稼ぎカップルでも、妻の方が夫よりも10時間程度多く家事をしている
- ・「家事は妻がやるもの」という考え方が浸透してきたため、妻が不公平感を強めない
- ・共働きでも、子どもが生まれたら妻は仕事を辞めるだろうと思っているカップルの場合は、妻が多く家事を分担することになるだろう

家事の公平な分担の条件

- ・女性が長期的にそれなりの水準の所得を得ることができる労働環境の構築
 - 低所得の男女でも「二人で支えあう」ことができれば結婚も可能
 - 仕事も家事も協力してやっついこうと考えるようになるだろう

越えるべきハードル

- ・男女のスキル格差 — 問題は夫のスキル不足
- ・希望水準の不一致 — 希望水準のすり合わせにはかなり大きな心理的負担がかかる

公平な分担のために

- ・女性が長期的に生計維持に貢献できる体制
- ・時間をある程度自由に設定できる柔軟で残業のない働き方
- ・学校教育における家事トレーニング、それを通じた希望水準のある程度の共有

3. 家族と格差のこれから

家族があるがゆえに格差が子どもに引き継がれる

- ・親の経済力によって子どもの人生が大きく変わる
 - 日本では大学の学費は家計から負担
- ・家庭環境が子どものライフコースに影響を及ぼす
 - 学業に対する態度
 - 知的好奇心
 - 日常的な学習習慣など

結婚が格差を広げる

- ・先進国では同類婚（地位が同じような男女がカップルを形成しやすい傾向）が支配的
 - 所得が高い男女のカップル、所得が低い男女のカップルがしやすい
 - 同じタイプの「性向」（その人が属している社会階層ごとに共有されている感じ方、考え方、趣向）をもつ男女が結ばれやすい

家族・結婚が「意図せざる結果」として格差を維持・拡大させる

- ・家族・結婚の問題に政治が直接介入することは難しい

格差の緩和・是正には、少なくとも当面は*富の再配分に対応するしかない

*「少なくとも当面は」という言葉の背後にどういう意味が隠されているか、考えてみよう